

# 東南アジアを旅して



牛 島 義 友

私はこの九月に丸一か月、タイ、インドを中心として東南アジアをまわって来ました。この旅の印象や思い出については語りたいた事はたくさんありますが、幼児教育とか、家庭教育の立場からは殆んどお話しする事がないのは残念です。アメリカやヨーロッパの場合だとそこらで見聞した事がすべて何らかの参考になるのですが、何分東南アジアの生活にはわれわれが感心したり参考になると言うものはありません。しかしこのたびの旅で強く感じた事は一人の日本人として東南アジアを考え、今後提携して行く事に何かの役に立つと思えますのでそれをお話ししましょう。

以前私がヨーロッパに行った時にはその地で見聞する事に

対し余り驚きませんでした。否驚くまいと努力しました。イギリスの学校を見ても何と小さな学校であるか、この位の設備なら日本にでもあるとか、日本ももう一步努力したらヨーロッパの水準に達するだろうとつとめてヨーロッパと日本の距離をちぢめて見ようとしていました。これは内心劣等感をもっていたために何負けるものかという気持が働いていたのでしよう。

ところがこのたび東南アジアに行くに当ってはわれわれは決して彼らを後進国扱いにしたり、彼らを指導してやるという態度をもってはいけないということを自分に言いきかせておりました。しかし心の底では日本は先進国であり、最近の

国力の發達は世界の四位、五位を争うようなものとの優越感が潜在していたのは否みがたい事でしょう。それだけに東南アジアの諸国を見てそのすばらしい最近の發展や強烈な獨立意識を見て非常なショックを受け彼らに対して劣等感を感じるとまでは言わないが、優越感などはふっとんだような気がします。彼らは決して未開国や原始社会ではなく、われわれの社会に追いつこうと必死になっている国々です。

ホンコンの街がイギリス風の近代大都市であることは前から知っていた事です、そこからヴェトナム航空にのりかえて、サイゴンの街についてまず目を見はりました。正直な話、私の地理的認識においてはサイゴンなど眼中にありませんでした。ところがこの街は豊かな森の中にしよしゃなフランス風の建物から成っている美しい街で、東洋で一番美しい街という評がなるほどと思われます。大建築というのはいが、私共の泊ったホテルは九階建てで、設備の完備したそれだけにエキスペンシヴなものでしたし、新しい街作りとしての新興国の気魄を感じさせました。この街には大学は五つあるということだし、各国からの援助によって中等学校、病院とも立派な設備がどんどんできておりました。この国の女

の人の美しさ、特にその着物の美しさにひかれました。この人は南支那系の人ですから顔の感じが日本人と似ていて親しみを与えます。下はストラックスで、ぴったり体に合った上衣は脇から前後に分れて足の先までたれており、真っ直ぐ立つと全身すらりとしたスマートさを感じさせ、体を動かすとき上衣のすそが前後に動いてダイナミックな感じを与えます。清楚でしかも色気のある服装で、こんな姿で銀座を歩いたらさぞ人気をまき起す事だろうと思いました。

おとなりのタイは東南アジア中一番豊かで安定した国で、国民所得はひとり当たり百ドルに達し、特にバンコックの都市は立派な近代都市に作りかえられております。ここではアメリカその他の国からの援助も道路、学校、病院その他の形となって現われているせいか、日本の都市よりもはるかに近代的で美しい街が作られております。バンコックの都市に限って日本の学校と比較するならばその建物の点においては殆んど遜色がないと言えます。なおタイの幼児教育は日本の幼稚園を高く評価し、それにならって保育しようとしているし、また上流階級を対象とした幼稚園は保育料も高いが、なかなか立派な保育をしています。バンコックの中流階級の水準は

かなり豊かな安定のとれたもので、大学出の人の給料とか、教員、官吏の俸給はちやうど日本のそれと同じ位です。物価は輸入品は多少高くはありますが、しかし世界中の商品が並んでいるし、現地の食料などははるかに安価です。それだけに生活に余裕あり、住宅は戦後の日本人よりずっと快適なものに住んでいます。具体的に一つのタイ人の住宅の事を話します。これは決して上流と言うのでなく、中流の上の家庭です。まずその邸は千坪位の広さで、門はいつもとぎされており、自動車が来ると扉をあけて入るような構えです。その構えの中に五軒ほどの女の姉妹達の家族が住んでいます。元来タイの結婚は嫁入り形式でなく、男性が花嫁の方にいてそこで家を建て新生活をはじめの習慣です。その一つの家は二十坪位の洋風の建物で、階段を上って入るとかなり広いリビングルームがあり、きれいな応接セットと奥の方には食卓が置いてあり、天井は高く風通しよくしてありました。そのとなりに階段を下りると台所があり、電気冷蔵庫などが並べてあり、階段を上ると寢室で水洗便所もあり、極めて快適な住居で、大学出の若い技術者の夫と幼稚園位の二人の子ともさんと住んでいるので、構えの中には自家用車も二台位おいて

ありました。これから推してもその生活水準の高さが伺われるでしょう。或いは他の例で言うとタイの人達は新しいもの、機械的のものが好きです。学生達もよい万年筆を持ちたがります。日本のパイロットは中学生向きに使われており、大学生はパーカーを買い、気の利いた学生はパーカー六十一を持って自慢するという訳だそうです。これは日本では一万二、三千円位します。

またタイは小乗仏教の国であり、寺院がその生活の中心になっております。お寺の事をワットと言いますが、これが非常にすばらしいものです。タイの富の三分の一はワットにあると言われる位で同じ仏教のお寺と言っても日本の寺とは全く異り厚色のタイルの屋根をもち、美しくかざり立てられています。それは信仰の中心であると共に社交の中心でもあります。彼らの信仰心は非常に強く、例えばキリスト教が何百年と布教に努力していますが、その効果は非常に少なく、外国で、クリスチャンになったタイ人も国に帰ると仏教に改宗すると言われる位です。坊さんは非常に尊敬され、宗教の持つ権威は非常に高いわけですが、僧俗の子が峻別されず、一体となっている感じです。多くの男性は三か月間出家して僧

になる事を誇りとしておりますし、王様も出家をされます。この小乗仏教は戒律がやかましく、特に殺生を禁じますのでタイ人は平和的であり、犯罪なども少ない、まじめな生活を営んでいます。小学校でもまず朝の生活はお経をよむ事からはじまります。

このようにバンコックでは近代的な豊かな生活を楽しんでいます。農村に行くとその生活がぐっと落ち、都市と農村の差が激しい点にこの国の問題があると言えましょう。日本を訪ねたことのあるタイ人が日本は東京と地方の差が余りないという事をしきりに感心していました。

インドのニューデリーに十日間いて方々の学校を見せてもらいましたが、インドの国民所得はひとり当り五十ドルでタイより貧乏ですが、しかしニューデリーの都市は世界のどの都市にも負けない大規模の近代的なものです。以前に總督のいたパレスを中心としてその周りに政庁や議事堂があり、長い大通りがつづいてはるか向うにネール首相の官邸があり、その両側に役所その他の建物が並んでいます。この大通りは巾五〇〇米位もあり、ちょうど皇居前広場がずっと先まで伸びているような感じのもので、この道を横断するだけで

も一苦労です。これはインド人が作ったと言うより、インド統治のためにイギリスが作ったものでしょうか、その後の建物もこれに調和させようとしているので、やはり大規模なものにしようとする努力しているようです。しかしこのスケールですべてを揃えるという事は困難で、インドは頭でっかちで腕の小さい奇形児のようで、頭の方だけみると日本よりはるかに立派で世界的水準のものを持っています。ニューデリーはこのように大規模な近代都市ですが、そのおとなりのオールドデリーはせまい道幅に多数の牛と人が歩いている前近代的の昔ながらの印度人の生活です。或いは学校で言うところニューデリーの大学は日本のどれよりも大規模なものと言えます。しかし中等学校になるとかなり貧弱になり、二部教授もなされているし、また建物が間に合わず、テント張りの教室が幾つか残っているものもたくさんあります。更に小学校になるのと殆んどがテント張りです。否テントもなくて樹の下で教えているものもある由です。ニューデリー大学のすぐそばに小学校がありました。それはテント張りでした。あの豪壮な大学の建物のそばのテントの小学校はまことに不釣合で、なぜ大学の建物の一部をさいて小学校にしないのかという義憤

さえ感じました。

或いはインドの社会は多くのカーストから成り立っている、今日ではカースト制は廃止されましたが、しかし最下層のものはそのカーストからさえはみ出され、アウトカーストの者は不可触民とも言われ、みじめな生活をしています。この下層の人々は実によく働らきます。土木その他の重労働は皆この人達がします。炎天下、男は真ッ黒の裸体で作業し、女はスカートと頭からたれ下った布をかぶり、ジブシー様の服装で一見してサリーをまとった普通の印度婦人とは異った服装で、頭上の大きなかごで泥や煉瓦をはこぶ労働に従事しています。この姿はまさに映画に見る昔のエジプトのピラミッド建設に従事した奴隷の群の姿です。しかもこれだけ働らいて一日一ルピー（七十五円）の収入しかないそうです。印度の役人や大学出の収入はやはり日本のそれと大体似ています。

研究所の所長は月給千ルピー（七万五千元）ですから、その生活の程度も日本と同じ位にはできるわけでしょう。ところが下層階級がはるかに日本より悪い所にインドの問題があり、一ルピーではいかにしても生活を向上させる事は不可

能で、政治的には解放されているが経済的には一種の奴隷的状态におかれていると言えましょう。インドではこの点を解決して民主化するところに最大の困難があるようです。しかし中流の人達はその教育の点から言っても相当の教育を受け、中等学校では一年から英語をはじめ上級では英語で数学や理科の授業をうけており英語学習の進歩の早さには驚嘆します。また選択科目としてサンスクリットを選ぶ生徒もいます。十二、三才の女の子がサンスクリットの勉強をしているのを見ると何か驚きを感じました。日本の印度哲学者が一番悩むのはサンスクリットでその文法の複雑さは、ギリシャ、ラテン以上と言われています。「このサンスクリットはむづかしいでしょう」と生徒に聞いたら「そんなではない」と答えるのです。彼らはサンスクリットの唄を歌い、お祈りをしているのです。これは死んだことばではないのです。

また中等学校では普通の教科学習の他にクラブ活動が非常に盛んでカメラクラブ、ラジオクラブ、劇、音楽などの活動が盛んでその教育法は非常に近代적입니다。彼らの音楽はインド音楽、特にベンガルの音楽をやり、西洋音楽はやらぬし、劇の場合にはインド独立を謳歌するようなストーリーが特に

好まれています。即ち近代的教育を行なうと共にインド在来の文化を尊重しようとする傾向が非常に強く、言語もできればヒンズー語だけで教育したいと考えておるし、外国のものが自国のものよりまさっているというのを非常にきらいません。

その他の国々においても同じよう、東南アジアの国々は自分達の方で新しい国家を造ろうという意気が感ぜられ、最近の十年間すばらしい発展を示しているようです。パキスタンなどでもこの間に小学生は二倍に、大学生は三倍にふえたと報告されており、おくれげながら、急速に発展しているのがこれら後進国と言われている国々の実情でしょう。従っていつまでも後進国の状態に止まるはずはなく、日本との文化の差も急速にちぢまるのではないかと思えます。われわれは東南アジアと言うとはじめにものべたように見下すような気持を抱きますが、これは非常な誤まりで、ほんの少しばかりおくれで歩いているアジアの兄弟として彼らに対しては平等な立場で友好関係をもつということが何よりも大切ではないかと思えました。輸出に当たっても東南アジア向けと言った気持では絶対に成功しません。日本の一流品を持って行って

やっとアメリカ、イギリス、ドイツの商品と競争できるので。パイロットではパーカーと競争できません。

また日本にいるわれわれとして東南アジアから日本に留学している人々に対する親切な態度が必要です。彼らはたしかに日本をアジアの先進国として憧れており、インドなども日本の科学教育はすばらしいとときりにほめられ、くすぐったい思いをしました。日本では幼稚園から科学教育をしていると言ったり、日本に行つて科学教育を見たいと言う教師達も多勢いました。このような期待をもって日本を訪れる人達に対しわれわれは果してその期待に副えるでしょうか。

短期間日本を視察した人々は皆親日的であり、日本びいきです。しかし二年、三年と日本に留学している人はどのような気持をもって自国に帰ることでしょうか。かつて日本にたくさんの支那の留学生が来て、それが排日の急先峰となった事実を思い起し、今日の優秀な東南アジアからの留学生に対し、再びその誤まちをくり返さぬよう努力せねばならぬと思えます。

それはただ政府の義務だけでなく、日本人一人ひとりの彼らに対する心構え・態度が責任あるのではないのでしょうか。